

英語科授業の「場の設定」における授業改善

～英語教授法を活用し、言語活動の充実を目指した指導～

小泉中学校 英語 夏目佳代子教諭

1 授業改善の視点

ふかめるⅡ「場の設定及び多くの生徒の発言」に関わって

- ・ 班交流（教え合い・学び合い）、または課題別等での交流の場の設定

2 具体的な実践

(1) 実践について

グローバル化対応教員育成事業「国外大学プログラム」でカリフォルニア大学アーバイン校に派遣され、英語教授法を学んだ。そこで学んだアクティビティや手法を用いた授業実践によって、生徒たちの学び合いと言語表現の充実化を目指した。以下にその手法を述べる。



(2) Instructions 指示の出し方

生徒に活動内容などの指示を出す時は、生徒がより理解できるように、以下の点を意識して行う。

- ① **Say, repeat** ・ ・ 指示は1度だけでなく、生徒が理解しやすいように何回か繰り返す。何回繰り返すかは生徒やその状況次第である。
- ② **At least 2 channels** ・ ・ 指示は少なくとも2つの方法で出す。一番よく理解ができるのが、Visual（視覚）、次が Auditory（聴覚）、そし

て Kinesthetic（運動感覚）である。Auditory（教師が説明し、生徒は聞くだけ）にならないようにする。生徒のタイプはそれぞれであり、図や絵を見ることで（Visual）理解しやすくなる生徒もいれば、体を動かす活動を通して（Kinesthetic）理解しやすくなる生徒もいる。

- ③ **Volunteers to model** ・ ・ 活動を始める前に、教師と生徒、あるいは生徒同士で活動モデルを示させる。その生徒をほめて、自信をつけさせる。



- ④ **Poll the students** ・ ・ 指示を出した後、生徒に、指示した内容を答えさせる。答えられなければ、指示した内容が理解できていないので、活動をスタートさせても何をしてよいか分からないままの状態になってしまう。



(4) T.P.S

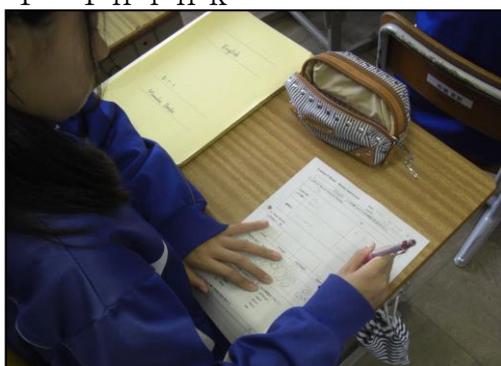
T—Think 個人で考える。

P—Pair ペアで確認、共有する。

S—Share クラス全体で確認、共有する。

問題を出した時など、すぐに生徒を指名して答えさせるのではなく、ステップを踏んで進めていくことが大切である。生徒には、考えたり交流したりするための十分な時間が必要である。

T—T h i n k



P—P a i r



S—S h a r e



(5) Task-Based Instruction

タスクに基づいた指導。何かの活動やタスクに取り組んでいく中で、英語を身につけていくという理論。

- ① **Authentic**・・・タスクはオーセンティックであること。オーセンティックとは、「本物の」という意味である。実際の使用場面を考えたタスク(買い物に行く、旅行の計画を立てる、など)、生徒が興味をもって取り組めるタスクにする。
- ② **Possible topics based on your texts**・・・タスクのトピックは、教科書に基づくものにするとうい。
- ③ **Interdependent: Students need each other**・・・生徒は、一人で学ぶのではなく、情報や考えを共有できる他の生徒(仲間)が必要である。
- ④ **Step by Step**・・・段階を追って指導をしていく。
- ⑤ **Language support**・・・ランゲージサポートタスクに取り組む中で、どんな英語を生徒が使っていくのかを示したプリントやポスターがあるとよい。生徒がいつでも見ることができるようにすることで、使える表現が増えていく。

3 実践を振り返って考えられること

大切なことは、英語で授業を進めることだけでなく、生徒自身で考えたり、仲間と考えや意見を交流したりする時間を十分にとることであると考える。アウトプットできるようにするためには、インプットと練習を十分に行うことが必要である。コミュニケーション能力は急には身につかないので、1時間の授業で行うことの道筋をしっかりとつけ、また、授業と授業のつながりをもたせられるように、計画、実施していきたい。